unicef
世界の子どもたちのために

ユニセフ兵庫ニュース

Wish

vol.46
2015年5月号

世界ハーモニカ連盟日本支部主催のコンテストで総合優勝した竹内海人さんのライブと
被災地をはじめ学外で積極的に活動する神戸市立須磨翔風（しょうふう）高等学校和太鼓部の皆さんのパフォーマンス（ユニセフのつどい）

CONTENTS

2-5 特集 イベントレポート ユニセフのつどい

6-7 活動ファイル 2014年12月〜2015年4月

8 お知らせ

夢を語り、夢を追い、羽ばたく若者たち。
そんな彼らと心をつなぎたいという思いを込めてスタートした今年のつどい。
メッセージ、演奏、わくわくワールドカフェ・・・
希望と躍動感に満ちあふれる彼らの姿に共感の渦が巻き起こり、
会場は清々(すがすが)しい余韻に包まれました。
そのイベントの様子をまとめました。

特集　イベントレポート

ユニセフのつどい

Unicef Festival vol. 13

世界のともだちと心をつなごう

Event Data イベントデータ

2015 年 3月8日 (日)
コープこうべ生活文化センター (神戸市東灘区)
参加者：250 人

講演「子どもたちへの約束」

未来を担う子どもたちの力を育むために、私たちユニセフに何ができるでしょうか・・・。平林さんにお話を伺いました。

昨今のニュースを見ると、今の社会は安全ではない、安心な社会ではないという思いがします。国の中の違い、民族間、宗教間の違いを含めて格差が紛争の火種になっており、災害も頻発しています。神戸は20年前に震災に遭いましたが、間違いなく前より良くなりました。しかし、世界の多くではまだそのようになっていません。

世界では年間630万人の子どもが5歳の誕生日を迎えられずに亡くなっています。学校へ行けない子が5000万人以上、そのうち3000万人は紛争地にいます。かつてないほど子どもたちが難民になり、5億から15億人の子どもたちが危険にさらされています。

ユニセフに何ができるでしょうか。大前提は緊急事態の時だけでなく、いつも一緒にいて踏ん張り続けて活動し、信頼されること。厳しい状況の子どもたちへのサポート、子どもたちに手を差し伸べてくれる大人へのサポートも行っています。

そのうえで重要な要素は教育です。教育は学問を学ぶだけでなく、自分の意見を自分の言葉で話し、他との違いを平和的に学ぶ機会です。

フィリピンのミンダナオ島は30年以上も内戦状態が続いた地。学校で平和教育を学んだ子どもたちは、学んだことを両親に話し、宗教の違いからくる軋轢(あつれき)を和解に持っていこうと取り組みました。昨年、黒柳徹子さんがミンダナオ島の学校を訪問。子どもたちは写真を撮る時、ピースサインではなく1本指を出しました。これは「地球は一つ、平和は一つ」の意味だとのことでした。これは一つの事例ですが、教育こそが一番有効な平和と安全な国づくりの糧であることは疑いのない事実だと思います。

講師
平林 国彦(くにひこ)さん
医学博士。約 10 年間国立国際医療センターに勤務。世界各地の病院での技術指導、保健省での政策立案支援など担当。2003 年より UNICEF に勤務。2010 年より UNICEF 東京事務所代表。

若者たちのメッセージ

20歳の迫裕太(さこゆうた)さん（写真右）の夢は、すべての若者の人権が守られる社会をつくること。自分の夢に向かって一歩ずつ進んで行くことを力強く誓いました。
18歳の辻昴輔(つじこうすけ)さん（写真左）は、東日本大震災のボランティア経験を通して、心のケアに携わる精神看護専門看護師を目指そうとしています。

募金贈呈式

学校や職場、生協組合員への呼びかけ、また商品代金の一部がユニセフ募金につながったことなど、各団体から活動紹介がありました。
皆様ありがとうございました。

参加団体（敬称略、順不同）
・伊藤ハム株式会社
・コープこうべ
・コープこうべ労働組合
・コープこうべ定時職員協議会
・神戸市立鷹取中学校

寄稿

雲の上の青空を感じさせたユニセフのつどい

兵庫県ユニセフ協会会長
黒木 稔(みのる)

ユニセフのつどいに、今年は主催者側の立場で参加しました。手薄な事務局体制ながら、ボランティアの皆さんと力を合わせて大変行き届いた運営がなされていたことに、まず感激しました。

今回、私はいくつかの新たな気づきをいただきました。その一つは、各プログラムにかかわった若い人たちを見ていると「日本の若者も捨てたものではないな」という印象を強く受けたということです。マスコミから何かと暗いニュースが流され、ともすれば悲観的な未来しか思い描けない中でも、自分にできる支援活動に真剣に取り組んでいる若者たちがたくさんいることを知り、心を洗われる思いがしたからです。

アフリカやアジアの子どもたちが置かれている状況は、空に暗雲が立ちこめている状態のように思えます。それでも希望を失わずに、救援活動や募金活動に汗を流している若い人たちが身近なところにもたくさんいることを再認識いたしました。

プログラムの掉尾(ちょうび)を飾った須磨翔風高校和太鼓部の皆さんの演奏は迫力満点で、大変感動的でした。演目の中の「蒼天(そうてん)」は、雲の上の青空を意味している、という説明でしたが、それを聞いて、私はかつて生協のトップが言っておられた懐かしい言葉を思い出しました。私の44年間の生協人生の大恩人でもあるその方は、いつも「雲の上には青空がある」という言葉で職員を元気づけておられたのです。

ユニセフの活動で救える子どもたちは、まだまだ限られていますが、それでも、まず自分にできる一歩を踏み出すことで、いつか雲間から青空が顔をのぞかせるのだ――そんな希望を胸に抱くことができて、心に残るユニセフのつどいとなりました。

黒木 稔
1969 年　灘神戸生協（現コープこうべ）入所
1998 年　大阪北生協専務
2011 年　コープこうべ専務
2013 年　同顧問
2015 年　兵庫県ユニセフ協会会長

わくわくワールドカフェ

ユニセフのつどい初の試み、グループトークは大成功。
活動を始めたきっかけは何?ターニングポイントはいつ?どんな時?参加者の主体的な語り合いを報告します。

出店のみ参加団体（順不同）

海外支援	ガーナ支援交流協会
東日本支援	賀川記念館、やんだくない、ワタママプロジェクト、おだってばりぃで、モビーディック、あみーず、神戸市立本山中学校、コープこうべ

1 フィリピン

発題者
ソルト学生支部・同志社大学
北村春香さん　河野桃子さん
元岡駿平さん　横山かおりさん
加藤尚さん

パートナーとの協力が不可欠

ソルトは、ケルン市パヤタス地区のスラムの人々への支援と「貧困に立ち向かう女性と子どもを中心に理想や夢に寄り添い、共に実現を目指す」を目標に活動しています。毎年スタディツアーを行い、現地を見ることで理解を深めています。現地の学生パートナーと協力し、奨学生支援、刺繍（ししゅう）商品の販売などを行い、その製品を日本でも販売しています。

2 ケニア

発題者
アマニ・ヤ・アフリカ
中津川勇志さん

アマニとは「アフリカに平和の願いを込めて」

ケニアは多民族国家のために、常に政情が不安定で治安も悪化しています。首都ナイロビの人口は約 300 万人。その半数が点在するスラムに暮らしています。ケニアは格差社会のため学歴のないスラム出身者がとけ込みにくいのが現状です。参加者からは、ナイロビで立ち上げたビジネスがうまくいかなかったことが語られました。

3 カンボジア

発題者
CHA カンボジア ハンディクラフト アソシエーション
竹村彩花さん

「メコン川、地雷を知ってる?」クイズからスタート!

竹村さんとカンボジアとの出合いは、『地雷ではなく花をください』の本でした。大学進学後、スタディツアーに参加。地雷原に足を踏み入れた瞬間に恐怖を感じ、そこで暮らす人々に思いを馳せずにはいられなくなったようです。その後、何度も通い、4 年生の 1 年間は休学し、障がいのある女性の活動を支援する団体の代表にもなりました。今年 5 月からはカンボジアの会社に転職。プノンペンに腰を据えるそうです。

4 ラオス

発題者
ODOP × 関西学院大学
山本真司さん

一村一品運動に力を

「なぜ、ラオスですか」との質問に、山本さんは、人が優しい、居心地が良い、雑貨が好き、と答えました。2 年の時に 2 か月間旅行。再びラオスへ行き、5 か月間一村一品運動に携わる。うれしかったことはマンゴジャムで餡（あん）を作り売れたこと。困ったことはコミュニケーション。豊かな自然の中でゆったりと時間が流れるラオスから多くのことを学んだそうです。ラオスに行ってみたいと思われた参加者もいたのでは。

5 ルワンダ

発題者
ルワンダの教育を考える会
永遠留（とわり）マリールイズさん

留学生を交え熱い教育談義

マリールイズさんは、来日のきっかけ、ルワンダ紛争、難民生活、再来日までの経緯など、人との出会いの大切さを話しました。紛争後には夢を語れなかったルワンダの子どもたちのために学校を設立したこと、教育こそが平和の原点との話に議論が集まりました。3 人の留学生は、日本で習得した高度な ICT の技術を母国で広め活躍したいとの希望を語りました。

6 日本

発題者
兵庫県立西脇工業高等学校

東日本支援活動へのステップアップ

高校生の新鮮さや初々しい声を聞きに来られた方も多く、ボランティア活動をどうとらえているのか、参加してどう感じたか、その後の生活に変化はあったのか、など話が続きました。終了後、彼らは「答えが出せない質問もあり困った。ボランティアに対する漠然とした意識が整理されたようで清々（すがすが）しい気持ちになった」と満足気。ユニセフのつどいへの参加は、内から外へ大きく意識を向ける良い体験となったようです。

7 アフガニスタン

発題者
CODE 海外災害援助市民センター
斉藤容子さん（元スタッフ）

続く、ぶどう畑再生プロジェクト

戦争によって荒れたぶどう畑再生プロジェクトは、2003 年から始まりました。参加者からは、ぶどうの栽培方法、協同組合や伝統的な地下水路（カレーズ）のことなどに質問が出ました。有機栽培ぶどうを天日干しした無添加「れーずん」の購入者拡大の提案もありました。支援において大切なことは、現地のカウンターパートと必要なことを一緒に見つけ、信頼し、任せていくことだそうです。今は、治安が悪いため行くことはできませんが、この国が身近になった時間となりました。

8 ネパール

発題者
SPEC
吉川雄介さん

届く支援、見える活動

ネパールの子どもたちとの出会い、カトマンズのケアハウスでの交流活動を中心に、日本型「運動会」や現地中学校とのスカイプを通しての授業交流について説明がありました。話し合いは、子どもたちの暮らしを少しでも変えるための具体的な支援について進み、これからの活動を考える良い機会になりました。吉川さんは 7 月からネパールで新しい仕事に就くことを報告、驚きの声の中で終わりました。

9 ユニセフ

ユニセフスタンプラリー

水がめ、命のメジャー、遊びの空間、紙芝居、手洗いダンスをラリー形式で体験しました。水がめを頭に乗せて「空でも重い」の声が上がり、命のメジャーを手に巻き、写真の赤ちゃんの腕の細さを知り、びっくりされる人もいました。

5 第7回 国際理解講座

「日本よ、どう生きのびる？」

講　師　ジャーナリスト　大津 司郎さん（写真左）
拓殖大学国際学部教授　甲斐 信好さん（写真右）
日　時　2014 年 12 月 13 日（土）
会　場　コープこうべ生活文化センター
参加者　48 人

大津さんからは、世界の波にのみ込まれている日本の舵（かじ）取りとグローバル人材をどう育てるのか、という提案がありました。

甲斐さんからは、今こそ、若者への未来の投資と人材を育てることの重要性が提示されました。

大津さんは、各国のヘッドラインニュースに出てくる世界の出来事の質と割合の違いは何を示しているのかわかりますか、と問いかけました。例えばエボラ出血熱、ボコハラムによる生徒連れ去り事件、コンゴで起きた500万人が殺された最大の戦争。そのような重要な情報さえも日本では十分に報道されなかった事実があります。私たちの想像をはるかに超える世界のニュースをあまり知らされていないのです。最近は情報機器の発達により、メディアに頼らなくとも世界の映像も瞬時に入ってきます。そんな世界との距離感が危うい、と大津さんは言います。さらに、危険な状態として、今の日本人が利益の追求ばかりに走ることや個人の幸せを強く求めることを挙げました。日本とは違って韓国や中国の若者は個人の力を試そうとして世界にどんどん打って出ています。日本の若者は成長の過程で個をつぶされてしまうことがあります。これからは個の時代、大切なことは人間力だと強調されました。今、世界に通用するには、伝達力と自己表現力に優れていることが求められています。今の日本にそんな若者が育つ環境があるのでしょうかと大津さんは問いかけ、甲斐さんにバトンタッチしました。

甲斐さんは、毎年ルワンダのスタディツアーに連れて行った学生は何かを学び、何かを見つけてくる。学生たちは子どもたちの姿を見て、生きることがこんなにも大変だということを感じ、息をのむんです、と切り出しました。続いて近頃は自分が不幸だと思っている学生が多い。だから、①世界にはこんな暮らしをしている人がいることを知る。②それを鑑（かがみ）にして日本のことを理解する。③広島・長崎のことから、これからの日本を平和で安全な国にしていこうという気概を持つ。以上の３つのことを願いたいのです。そして、日本人は利己主義ではなく利他主義を考えていこうと言いたいのです。日本人が本当に幸せになりたいのなら世界の困っている人へ何ができるか考えていきたいですね。マザーテレサが亡くなる人を前に示したことは、私たちは世界の人に対して決して無関心であってはいけないということです。真のグローバル人材とは思いやりのある人ですね、と話されました。

講座終了後、二人の講師を囲んだ高校生たちとの熱い話し合いは続きました。

6 ユニセフ出前学習会

日　時　３月３日（火）
訪問先　西宮 阪神友愛食品株式会社　能力開発センター
参加者　14 人

本校は知的障がい者を対象とした職業訓練施設で訓練生は就職を目指し、日々、工場内での食品加工の作業実習や国語や数学の学科を学んでいます。

ユニセフの出前学習の事前の打ち合わせの時に、ボランティアの方に国語の学習風景を見ていただきました。講義を聞くだけでなく一緒に参加し、自分自身で考えるような形で進めていただくようお願いいたしました。また、訓練生は就職を目前に控えていることもあり、児童労働をテーマにしたロールプレイ「工場から学校へ」をボランティアの方と一緒に演じることになりました。

当日、初めにユニセフの活動や世界の子どもたちの状況の説明がありました。その後、グループに分かれて話し合いました。発言できにくい訓練生もだんだん感想や質問を出し合っていきました。トイレがないこと、きれいな水を手に入れるのが大変なこと、給食がおかゆだったことに関心をもち、自身の子どもの頃の振り返りから命の大切さに発展したグループもありました。

いよいよロールプレイの準備が始まり、衣装を着けるのを恥ずかしがる訓練生もいましたが、全員が自分の役目を果たし、ボランティアの方の迫真の演技にも助けられ、大いに盛り上がりました。

訓練生は、多くの赤ちゃんが5歳になるまでに亡くなってしまうという厳しい状況に驚き、胸を痛めながらもボランティアの方のおかげで楽しく学習することができたようです。また、自分たちに何ができるかを考えるよい機会にもなりました。ボランティアのみなさまありがとうございました。

（指導員 藤原享子）

2 2015 ユニセフカップ 神戸バレンタイン・ラブラン 芦屋国際ファンラン

日時・会場　２月　８日（日）　市民広場（神戸市中央区）
４月12日（日）　芦屋中央公園（芦屋市）

神戸では、1987 年以来「戦争、災害、貧困に苦しむ子どもたちに愛の手を!」をテーマに、芦屋では 1984 年以来「教育をすべての子どもたちに!!」をテーマにユニセフカップ・チャリティーマラソンが行われ、参加料の一部を寄付していただいています。

昨年 11 月に行われた西宮でのユニセフカップをあわせると、これまでの開催回数は 101 回、寄付総額は約 9800 万円にのぼっています。ありがとうございました。

3 ママハピ EXPO に出展

日時・会場　２月 25 日（水）ららぽーと甲子園（西宮市）

ママハピ EXPO はママのはたらくと子どもの教育を応援するイベント。この日のコミュニケーションツールは風車と牛乳パックで作るキューブパズル。ママさんパパさんが見守る中、子どもたちは一生懸命にキューブや風車を作っていました。ユニセフのこと、世界の子どものことをお伝えする良い機会になりました。

4 神戸国際交流フェアに出展

日時　　３月 15 日（日）
会場　　ハーバーランド・スペースシアター（神戸市中央区）

神戸は、草の根の国際交流活動が活発なところ。今年は、「笑顔の輪を広げよう!神戸から」をテーマに、50を超える国際協力・交流団体や外国人コミュニティなどが参加しました。

兵庫県ユニセフ協会は展示ブースに参加し、開発途上国で使っている物資の展示とパズル、工作などを行いました。水がめへの関心は高く、多くの人がその重さを実感、途上国の子どもたちの現状を説明する声にも耳を傾けて下さっていました。また「水がめ知っていますよ」と声を掛けて下さる参加者もおられました。

Activity File

活動ファイル

兵庫県ユニセフ協会の活動履歴

2014 年 12 月～ 2015 年 4 月

活動一覧 Activity List

学習会訪問一覧

月日	訪問先	対象	人数
1 月 21 日	コープこうべ第 3 地区福祉サークル	大人	50
2 月　4 日	尼崎市立小園小学校	小学 6 年	108
2 月 13 日	赤穂市立城西小学校	小学 5 年	159
2 月 20 日	西宮市立甲子園浜小学校	小学 5 年	132
2 月 24 日	神戸市立福住小学校	小学 6 年	81
3 月　3 日	阪神友愛食品能力開発センター	大人	14
4 月 12 日	ガールスカウト兵庫県 第 83 団	小学生・大人	18

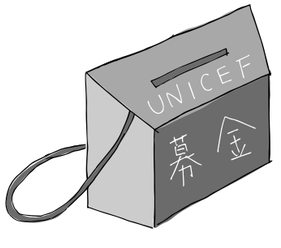
地域活動一覧

月日	イベント名
1 月 11 日	コープカルチャー宝塚平和のつどい
1 月 16 日	つながろうCO・OPアクション交流会
2 月　7 日	カレンダー募金
2 月　8 日	2015 ユニセフカップ 神戸バレンタイン・ラブラン
2 月 22 日	コープファミリーフェスタ西宮
2 月 25 日	ママハピEXPO
3 月 15 日	神戸国際交流フェア
3 月 26 日	コープこうべ三木緑が丘コープ委員会
4 月 12 日	2015 ユニセフカップ芦屋国際ファンラン

1 募金贈呈式に伺いました

３月　２日（月）　尼崎市立園田南小学校
３月 20日（金）　明石市立人丸小学校

子どもたちは、厳しい環境で暮らす世界の友だちのことを思い、校内で募金を呼びかけました。集められた募金はずっしり重く、多くの子どもたちの温かい心が伝わってきました。ありがとうございました。



ユニセフ募金 *Donations For Unicef*

通常募金

通信欄記載事項	振替口座	手数料
K1-280 兵庫	00190-5-31000	免除

緊急・復興募金

	通信欄記載事項	振替口座
エボラ出血熱	エボラ K1-280 兵庫	00190-5-31000
シリア	シリア K1-280 兵庫	00190-5-31000
アフリカ	アフリカ K1-280 兵庫	00190-5-31000
自然災害	自然災害 K1-280 兵庫	00190-5-31000
人道支援	人道支援 K1-280 兵庫	00190-5-31000

*共通口座名義：公益財団法人 日本ユニセフ協会
*手数料免除
*3月13日、サイクロンの直撃を受けたバヌアツへの緊急支援募金を開始しました。

あなたもボランティア! *Volunteer*

ユニセフっていう言葉は知っているけれど、どんな活動をしているんだろう。世界の子どもたちのために、私のできることはなんだろう。「できる人が できる時に できることを」活動しています。お気軽にご連絡ください。

ユニセフ兵庫ニュース
Wish vol.46
ユニセフ兵庫ニュース Wish
2015 年（平成 27 年）5 月発行

発　行　：兵庫県ユニセフ協会
住　所　：〒658-0081
神戸市東灘区田中町 5-3-18
コープこうべ生活文化センター 4F
電　話　：078-435-1605
ＦＡＸ　：078-451-9830
（お問い合わせは平日の 10:00 ～ 16:00）

●最新の情報はホームページで
http://www.office-bit.com/unicef-hyogo/
兵庫県ユニセフ協会　検索

●兵庫県ユニセフ協会への案内図

Join Us 主催イベント

講師の都合により予定を変更する場合があります。
詳細は HP をご覧ください。

ユニセフ入門講座

「いのちを守る水」
日時　6 月 27 日（土）13:00 ～
会場　コープこうべ生活文化センター

ユニセフ七夕セミナー

ユニセフで働いた 30 年
「ユニセフができること」
日時　7 月 4 日（土）13:00 ～ 16:30
会場　海外移住と文化の交流センター（神戸市中央区）
講師　久木田純さん
元国連職員。現在、国連フォーラム共同代表、神戸大学大学院非常勤講師、（NGO）Climate Decision 代表。

ユニセフ国際セミナー

「在住ブラジル人の
子どもたちと今」（仮）
日時　8月8日（土）13:00 ～ 16:30
会場　海外移住と文化の交流センター
講師　伊木ロドリゴさん
愛知県豊田市立保見中学校教諭。10 歳の時に来日。わからない日本語と格闘しながら日本の学校で学び、先生になる夢をかなえる。NHK 番組「突撃アットホーム」で熱血教師として子どもと共に歩む姿が紹介された。

平和講演会

戦後 70 年にあたり
喪失体験と日本人のもつ再生力
日時　10月4日（日）13:30 ～ 15:30
会場　コープこうべ生活文化センター
講師　高木慶子さん
上智大学特任教授、上智大学グリーフケア研究所特任所長、「生と死を考える会全国協議会」 会長。

国際理解講座

国際理解講座は、兵庫県ユニセフ協会、日本国際連合協会兵庫県本部が共催し、公益信託兵庫県婦人会館ユネスコ基金の助成を受けて行っています。

国際理解講座 ③

「フィリピン・ミンダナオ
子ども図書館の活動」

日時　7 月18日（土）13：30 ～ 15：30
会場　コープこうべ生活文化センター
講師　松居友さん
ミンダナオ子ども図書館館長。紛争の絶えない山岳地帯を訪ねて子どもたちに絵本を読み聞かせる活動のほか、就学支援、保育所設立、難民救援、植林活動などを行っている。

国際理解講座 ④

桑山紀彦さんがつづる
「地球のステージ」
～果てなき地平線～
日時　8月22日（土）13：30 ～（予定）
会場　姫路市文化センター

国際理解講座 ⑤

「イスラム国の台頭
～取材映像で見る
シリア・イラク北部は今」
日時　9 月 19 日（土）13:30 ～ 15:30
会場　コープこうべ生活文化センター
講師　玉本英子さん
アジアプレス 大阪オフィス所属。コソボ、アフガニスタン、イラク、シリアなど写真、ビデオを中心に取材、発表。

上記すべてのイベントについて
お申込み、お問い合わせ先　事務局　078-435-1605

ネパール大地震緊急募金

© UNICEF/NYHQ2015-1013/Nybo

人口のおよそ半分が 18 歳未満の子どものネパールでは、子どもたちへの影響が心配されています。子どもたちに迅速に支援を届けるために、みなさまのご支援を宜しくお願いいたします。

郵便局（ゆうちょ銀行）募金口座

通信欄記載事項	振替口座	口座名義
ネパール	00190-5-31000	公益財団法人 日本ユニセフ協会

*窓口での振り込みの場合は、送金手数料が免除されます。